



現代短歌分類辭典

第五十二卷

津 端 修 編 簡

津 端 修 編 繁

現 代 短 歌 分 類 辞 典

日本財団支援

笠川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辞典

52

昭和五十五年一月五日発行 定価一・七〇〇円

著者発行
印 刷 者
津 端 修

静岡県賀茂郡河津町田中一四二一

発行所 津 端

修

〒413-05

振替 横浜 一〇六九
電話 ○五五八三一一一二二八三

目

二一四七一一一一三八三三五
歌数

“ “ 番 “ “ 空 “ “ 空 空 五 四 二 一
頁数

同	同	同	同	同	ある	歩	歩	歩
⑥	⑤	④	③	②	①	アルウエット	歩いても	歩いては
						(2)	てる	てた
						(1)		

次 (第五十一卷)

一二九二四七一四二四一一三
歌数

八八 “ 空 “ 空 “ “ 空 “ “ 空 空 番
頁数

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 ある——か
 ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉞ ㉟ ㉟ ㉝ ㉝

三 二 七 一 三 三 九 三 三 九 二 四 一 九 五 一 二 八 六 三

“ 一 〇 一 三 一 九 九 ” 五 “ 九 九 ” 五 五 “ 五 五 ” 五 五
 ある——歩 ある——歩 ある——歩 ある——歩 ある——歩 ある——歩 ある——歩
 か——か——か——か——か——か——か——か——か——か——か
 ある——アル ある——アル ある——アル ある——アル ある——アル ある——アル ある——アル
 が——カ が——カ が——カ が——カ が——カ が——カ が——カ
 う——上 う——上 う——上 う——上 う——上 う——上 う——上
 に——に に——に に——に に——に に——に に——に に——に
 と——と と——と と——と と——と と——と と——と と——と
 よ——よ よ——よ よ——よ よ——よ よ——よ よ——よ よ——よ
 か——か——か——か——か——か——か——か——か——か——か——か——か
 ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉝ ㉞ ㉞ ㉟ ㉟ ㉝ ㉝

一 一 二 三 一 一 九 一 一 一 一 二 一 一 三 七 一

一 五 “ ” ” 一 六 五 五 “ ” ” 一 三 “ ” 一 三 “ 一 四 〇

ある限り①
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
⑥ ⑤ ④ ③ ②
あるかぎり一のみ
あるかぎり一は
ある一が一ごと
ある一が一ごとき
ある一が一ごとくに
ある一が一ごとくも
ある一が一ごとし
ある一が一ごとしと
ある一が一ごとしも

五一七二三一三ハ一一二四〇二二一四

歩かされるし
歩かされり
歩かしめ
歩かしら
歩かす
歩かすず
歩かせ
歩かせし
歩かせて
歩かせにけり
歩かせむ
歩かせる
アルカディア
ある一かと
ある一かと
ある一かとも
ある一かな①

三三三四三一一一二四一一一一一一

一七三三三三六九六六六六六六七

ある—かな②
同 ③

歩か—な—と

あるが中なる

あるがなに

あるがなに—は

あるがなに—も

あるがなに

あるがなき

あるかなき—か

あるかなき—か

あるかなき—か

あるかなき—か

あるかなき—か

あるかなき—か

あるかなき—か—を

一一一七三三一三三五—四一六一一七三

二〇四二二〇三二〇五二二〇六二二〇八二二〇九二二〇五

あるかなく
あるかなし—かに
あるかなしの
ある—かな—と
ある—かな—や
ある—かに①
ある—かに②
歩か—ぬ
歩か—ね—ば
ある—か—の
ある—が—の
ある—か—は
歩か—ば
歩か—まほしき
あるがまに
あるがまにまに

五一一二二四一九一ニ三二〇四二一一二二

二二五二二七二二九二二七二二六二二五

あるがままなる
 あるがままに
 あるがままにーし
 あるがままにーして
 あるがままにーぞ
 あるがままにーて
 あるがままにーは
 あるがままにーも
 あるがままーの①
 同
 あるーかも①
 步かーむ①
 同 ②
 ④ ③ ②

三六二二六一三一一八四一一一四三二

三五 “ 三四 ” 三六 ” “ “ “ 三六 ” “ “ 三五 ” “ 三四

あるーかもーと
 あるーかや
 あるーかよ
 あるーから
 あるーからーこそ
 あるーからに
 アルカリ
 アルカリいづみ
 歩るかーれーき
 あるかーれーし
 歩かーれーず
 步かーれる
 アルカロイド
 あるーかーを
 步かーん
 步かーんーと
歩き【名詞】

三二二二一ー三一一一ニハ一五一三一

“ “ 三五 ” “ “ “ 三六 ” “ “ 三七 ” “ “ 三六 ” “ 三五

歩き【動詞】

歩き歩き—て
歩き出さ—む
歩き出づ
歩きいで—し
歩き入る
歩きうつり—し
歩き得る
歩き得る—か
歩き得—ず
歩きおくれ—て
歩き方
あるきがたし—と
歩き帰ら—な
あるき語り
あるき帰る
歩き—き

一一二一一一—一—一—一

二四三

歩き來り—し
歩ききたれ—り
歩き來—つ
あるき來—て

一一一ニ一—ニニ—七—三—一三

二四五

歩き來—に—けり
歩きぐれ—ば
歩き—けり
あるき—ける—か
あるき—ける—かも

“ “ “ “ “ “ “ “ “ “ “ “ “ “ “ “ “ “

二四四

歩き來—し—と
歩き來—し—のみ
歩きざま
歩きさまよひ—て
歩き去る
歩き—し①

歩き—し②

あるき—し—か
あるき—し—のみ

歩き—し—は

歩きそめ

歩きそめ—たり

歩きそめ—つ—と

歩き初め—む—と

歩き—たい

歩き—たかり—けり

歩き—たき

歩き—度く—ない

歩き出さ—う—と

歩き—たし

あるきだし—さう—で

一 二 一 一 二 三 一 一 一 一 一 二 一 二 五

二 五 〇 二 五 三 二 五 四 二 五 五 二 五 六

あるきだし—た
歩き出しだ—よ
歩きだし—たり
歩き出しだ—たる
歩き出す①
同 ②
歩き出す—と
あるきだせ—ば
歩きたづぬる
歩き—給へ—と
歩き—たり
歩き—たり—けり
歩き—たり—し
歩き—たり—とふ
歩き—つ
歩き—たる
歩き疲れ

一 三 三 一 一 ハ 一 一 二 一 六 一 一 一

二 六 〇 二 六 三 二 六 七 二 六 七 二 六

歩き疲れ——し
歩き疲れ——た
歩き疲れ——たり
歩き疲れ——たり——けり
歩き疲れ——つ
歩き疲れ——て
歩き疲れ——ぬ
歩き疲れ——ぬ
あるき尽す——も
歩き——つつ
歩き——続け
歩きつづけ——て
歩きつづける
歩き——つつ——し
歩き——つる
歩き——て
歩き——て——ぞ
歩き——ては

一一 竅 二 一 三 二 一 四 三 一 二 五 一 一 一 二

二 六 一

歩き——ても
歩きとほし——て
歩きとほせ——し
歩き——ながら
歩き——ながら——も
歩き——ながら——に
歩き——ながら——も
歩きにくかり
歩きにくき——よ
あるきにくく
歩き——ぬ
歩きのこり
歩きぶり
歩き呆け——て
あるきほてり——て
歩き——まし——けむ——と

一一 一 一 二 一 三 一 一 一 二 一 三 一 二 二

二 六 〇 二 七 一 三 七 一 二 五 二 七 一 二 二

歩き廻つて
あるき廻ら——な
歩きまはら——ば
あるきまはりき——て
歩きまはり来——し
歩き廻り——し
あるきまはり——し——が
あるき廻り——つ
歩き廻り——て
歩きまはり——ぬ
歩きまはり——つ
歩きまはり——をり
あるきまはる
歩きまはれ——り
歩き廻れ——る
あるきまめ
歩き見——まほし
歩き見る——かな

二八〇

歩きもとほる
あるき——や——し——けむ
歩き易し——など
歩きゆか——まし
歩きゆき
歩き行き——な——む
あるきゆき——ぬ
歩き行く①
同②
歩きゆく——とも
歩きゆく——なり
歩きゆけ——ば
あるき——し
歩き——る——き
歩き——る——し
歩き——る——と

一一三一——ニ——六——一ニ———

二八三

歩き—る—て
 歩き—る—む
 同
 歩き—る—る①
 同 ②
 歩き—る—とも
 歩き—る—なり
 歩き—る—は
 あるき—を—ら—む—か
 あるき—を—ら—む—か
 歩き—を—り—て
 あるき—居—り—ぬ
 歩き—を—る
 歩き—を—る—かな
 歩き—を—る—を
 歩き—を—れ—ば
 歩く①
 歩く—は
 歩く—の—で
 歩く—の—が

二一 八 一 三 一 一 一 一 八 一 一 一 一 三 二 一 五

二 五 三 " " " " " 二 五 三 " " " 二 五 八 二 八 七

歩く	歩く	歩く	歩く	歩く	歩く	歩く	歩く	歩く	歩く	歩く	歩く	歩く
歩く—が	歩く—と	歩く—だら—う	歩く—ごとし—と	歩く—が	歩く—と	歩く—だら—う	歩く—ごとし—と	歩く—が	歩く—と	歩く—だら—う	歩く—ごとし—と	歩く—が
歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に	歩く—に
あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に	あるく—に
も	ぞ	も	ぞ	も	ぞ	も	ぞ	も	ぞ	も	ぞ	も

六 一 一 一 六 八 九 一 一 四 一 一 一 七〇 九 二 三

三〇四 三〇五 三〇六 三〇七 三〇八 三〇九

歩く人
あるくべき
あるくべし
歩くも①
歩くより②
歩くらむ
歩くを
歩け
歩けたら
歩けと
歩けたらと
歩けど
歩けども
歩けない
歩けないや
歩けないや
歩けない
歩けない
歩けない
歩けない
歩けない
歩けない
歩けない
歩けない
歩けない
歩けなくなる
歩けなくなれば
歩けぬ
歩けば
アル・ケネディー
歩けり
歩けよ
歩ける①
歩けり
歩ける②
歩ける③
歩けれるが
あるけれるかしら
あるけれるだけ
歩けれる
あるけれど
アルゴ
アルゴ
アルゴ
アルゴ
アルゴ
歩く人
あるくべき
あるくべし
歩くも①
歩くより②
歩くらむ
歩くを
歩け
歩けたら
歩けと
歩けたらと
歩けど
歩けども
歩けない
歩けないや
歩けない
歩けない
歩けない
歩けない
歩けない
歩けない
歩けなくなる
歩けなくなれば
歩けぬ
歩けば
アル・ケネディー
歩けり
歩けよ
歩ける①
歩けり
歩ける②
歩ける③
歩けれるが
あるけれるかしら
あるけれるだけ
歩けれる
あるけれど
アルゴ
アルゴ
アルゴ
アルゴ
アルゴ

二二二五四一一二二一三二二一一三

三〇 三九 三〇 三八 三七 三六 三五
歩けなくなる
歩けなくなれば
歩けぬ
歩けば
アル・ケネディー^一
歩けり
歩けよ
歩ける①
歩けり
歩ける②
歩ける③
歩けれるが
あるけれるかしら
あるけれるだけ
歩けれる
あるけれど
アルゴ
アルゴ
アルゴ
アルゴ
アルゴ
歩けなくなる
歩けなくなれば
歩けぬ
歩けば
アル・ケネディー^一
歩けり
歩けよ
歩ける①
歩けり
歩ける②
歩ける③
歩けれるが
あるけれるかしら
あるけれるだけ
歩けれる
あるけれど
アルゴ
アルゴ
アルゴ
アルゴ
アルゴ

四一一二三一一一四四〇一四一一一

三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三
三三

ある—こそ ①

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

ある—ごと ①

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

一、五六 八三三四五六六六一一一一七

〇三四三三三三三三三三三三三三

昭和五十四年四月二十四日起稿
昭和五十四年六月十一日 脱稿
資料カード五七二、三〇〇首の内より

ある⑯【動詞】

老学徒の余生を悔い^イずあるわれなり 新入生歓迎の演壇に立つ²⁸
遠山のただ横ざまに長きかな地上のちから限りあるため²⁰

肋骨カリエス盲腸胆石の手術の痕我ある限り消ゆることなし^②

六十になり今日六十になり健康な自分であることに平安となる^⑦
六十年昔をかたるまなざしのきびしきながら涙ある人^①

炉のほとり懸われ敷くとらに在る玲羊に在る山荘の客²⁶

炉辺の絵見てあるほどにほのぼのと伽羅白檀の炭の香ぞする²⁵

論客と世評ある人の歌論読みしが何の感興も我に湧かざりき^②

論語の中に書き有る顔回の日常はわれに救のごとし^①

倫敦の放送入りて今宵きこゆ少し訛のある日本語¹¹

汪精衛帝都に在る日ななかまど咲く高山を我は越えゆく

ある

土岐善磨

與謝野晶子

隅田葉吉

矢代東村

米倉久子

與謝野晶子

吉井勇

塚田菁紀

鈴木金二

松村英一

依田秋圃

ある

わが足はしかと大地につきてありつきてある事を喜びとする⑤
わがここにある終りまで散りはてじ寂しき白の残る李花かな⑥
わがこころあまりに清く在り経ては策ある世をし疎みもぞする④
我心に正しと思ふくさぐさを言ひて罪ある御代ならざらむ①
わが心ゆたかに保ち支へくる君ある故に吾は生くるなり②
わが子らよ歴史あるわが「詩歌」を愛して呉れよ真実愛してくれよ⑯
わが思想時に疑ふことありてかく生きてあることに慌てぬ②
わが住みし駿河の名ある茶羊羹分ち味はふこの朝膳に④
わが住める山の続きに神達のあるこちする元日の朝⑮
吾が生活世にかかはると若いはばここにあるバビリア製鉛筆一本
わが席より見れば距離ある階段を人ののぼるが画面のごとし⑥

佐佐木信綱
與謝野晶子
岡野直七郎
花田比露思
土岐善磨
齋藤喜博
前田夕暮
塚田菁紀
奥貫信盈
與謝野晶子
土屋文明
岡野直七郎